デジタル部門EA(経営参謀)体制の構築

☞ 部門横断課題



ビジネスアライメント(部門間 コラボ)

- 役職や組織の境界を超越
- フラットでクロスファンクショナルな人的ネットワーク を形成
- このビジョン・ストーリーに**共感**された方は**仲間**になり ましょう!

○ 人材育成(キャリア自律)

- 自分の意志で行動すれば、やらされ感は皆無
- 日常の面倒なタスクを自動化し、**ワクワク楽しい**クリエ イティブな時間を創出
- 互いに尊敬し合い、貢献し合える至福の時間を共有しましょう!

エグゼクティブサマリー

目的

- 経営レベルで策定されたDX戦略と、ビジネス部門(現場)における業務改善・実装を緊密に連動させ、全社最適化を実現
- 特定個人に依存する<mark>知識やノウハウを組織的に共有・標準化</mark>し、環境や人員の変化にも適応可能な持続的・拡張的な変革 推進基盤を構築

アプローチ

機能
戦略策定、投資配分、標準化
業務適用、価値検証
データ標準、ガバナンス
技術基盤、セキュリティ

期待効果

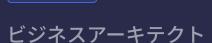
フェーズ	期待される効果
短期	ローコード <mark>市民開発</mark> による業務改善
中期	Al/データ活用の本格導入
長期	投資対効果の可視化と全体最適

EA・BA・DA・TAの定義と連携



エンタープライズアーキテクト

- 全社DX戦略の立案・推進
- IT投資の優先順位付け、効果測定
- システム間連携の全体最適化



- 業務プロセスの分析・最適化
- ステークホルダー要件の整理
- ROI算定と効果検証



データアーキテクト

- データモデル設計・標準化
- データ品質管理とガバナンス
- AI・アナリティクス基盤構築



🔓 BA

テクノロジーアーキテクト

- システム基盤設計・構築
- セキュリティ・性能要件の実装
- 新技術評価と導入計画

なぜ今:2025年の崖と変革の必然

現状課題

- ▼ ベテラン社員の知識が個人に属人化
- 部門システム乱立、データ断片化、重複投資が発生
- 人材不足や<mark>学習機会の分散</mark>により、変革スピードが不足

基本方針

- 構想と現場改善を組み合わせ 「戦略と実装の二重らせん」を推進
- データ中心の設計とガバナンスを整備
- 以下3層の育成を展開
 - 1. **現場オンボーディング**研修
 - 2. **市民開発ハンズオン**(非エンジニア、見習いエンジニア)研修
 - 3. プロ開発(PM、DevLead)研修

3層育成展開フロー



①現場オンボーディング

業務遂行に向けて自走可能

- ✓ 自身の立ち位置の理解、自律的なAP設定
- ✔ 前提知識の入手方法把握
- ✔ 業務遂行に必要なキーマンと相互に認識

基礎理解



②市民開発ハンズオン

実践スキル習得

- <u>✓</u> 見習いエンジニア向け ✓ AI活用プロ開発

実践体験



③プロ開発

専門スキル・リーダーシップ

- ✓ PM (プロジェクト マネジメント)
- ▼ DevLead (開発リーダー)

専門化・リーダーシップ

統合的な変革戦略

■ 1. 統合的な人材戦略と連携体制

「<mark>ビジネスアライメント(部門間コラボ)」と「人材育成(キャリア自律)</mark>」を核とし、組織横断的な人材戦略と連携体制を構 築

①現場オンボーディング研修

• *別プロジェクト*で検討中

②市民開発ハンズオン研修

• 詳細は後述

項目	機能
非エンジニア向け	ローコード市民開発
見習いエンジニア向け	AI活用プロ開発

③プロ開発 (PM、DevLead) 研修

• 別プロジェクトで検討中

2. 非エンジニア向け:ローコード市民開発

現場の知見とローコード市民開発を融合し、全社員のDXマインド醸成とスキル向上で新たな価値創造を目指す

ベテラン社員の経験・人脈の最大活用

項目	機能	O&M·E部門	役割
現場知見 活用チー ム	ベテラン社員を <mark>現場リーダー</mark> に任命	管理職20名 が変革リーダー	BA / EA が 担当
業務アーキテクト 育成	業務に精通した社員をBAとして育成	変革リーダーが <mark>RPA中核者70名</mark> を任命	EA / BA が 担当
メンター制度	ベテラン社員が若手に業務知識を伝承する仕 組みを構築	RPA中核者が初心者を育成	DAが支援

市民開発ハンズオン研修によるDXマインド醸成・スキル向上

• 詳細は後述

項目	機能	役割
プラットフォーム普及・拡大	UiPath等の全社標準化を推進(<u>Jennyポータル</u> を整備・拡充)	TA / EA が担当
セキュリティガバナンス	市民開発ガイドライン 制定とレビュープロセスを確立	TAが担当
段階的スキル習得プログラム	アプリ作成から <mark>AI</mark> 活用までの育成体系を構築	BA / DA が担当

♥ 3. 見習いエンジニア向け:□活用プロ開発

AIモデルの利用体験から、実践的なAI活用プロ開発へとステップアップするパスを提供

PIモデル体感フェーズ

• 詳細は後述

項目	機能	役割
Al体験ワークショップ	生成Allを活用した業務効率化実習を実施	BAが指導
AIツール活用	Pythonライブラリによるモデル構築を体験	DAが支援
Alサンドボックス	安全な <mark>Al</mark> 実験・学習環境を提供	TAが担当

プロ開発への昇華プロセス

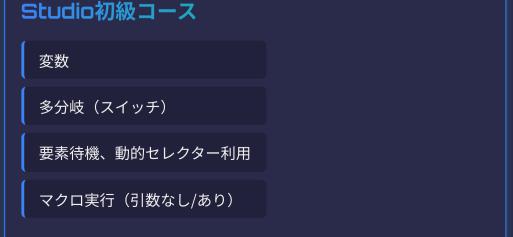
● 別プロジェクトで検討中

付録:具体的な取り組み例

ハンズオン研修

手を動かしながら実践的にスキルを習得するためのハンズオン研修カリキュラム 入門から上級までレベルに合わせたコースを選択し、AI活用やRPA開発のエキスパートを目指す

Studio入門コース ブラウザ操作 条件分岐 Excel操作 繰り返し



Studio中級コース EUC開発フレームワーク操作 アセットによるパスワードの管理 Sharepoint操作 例外処理 Studio上級コース API連携 セキュリティ対策 Copilot連携 AI自動化

VM初級コース

VMシステム構成

プレ本番VM利用

Orchestrator初級コース

ロボファイルのパブリッシュ

Orchestratorプロセス作成

Orchestratorロボ実行、ログ確認

本番適用と修正

社内インターンシップ

開発(正常系・異常系)

プレ本番VM環境テスト

受入テスト・設計書の作成

本番VM環境リリース

AIモデル体感コース

ワークフロー.xamlを作成

ワークフロー.xamlから設計書.mdを生成

設計書.mdからワークフロー.pyを生成

デモサイトからWebアプリ.htmlを<u>生成</u>

電力需要予測AIモデルを構築